

2016年6月11日実施【小浜北RCのTSコメント】

2016年6月16日 吉田 稔

〇6mライン

6mラインは、ライン周辺の目視観察での総被度は10～20%でありキクメイシ類、ハナヤサイサンゴ類、アナサンゴモドキ類、ソフトコーラル類などが見られた。底質調査のハードコーラル占有率（HC）の結果は23.8%と前年24.4%と比較して0.6%減少していた。直径5cm以下のミドリイシ類の新規加入群体は、1㎡あたり平均して10個以上みられ多いところでは20個以上のところもあった。3年前は新規加入がほとんど見られなかったので今後の回復が見込める状況である。

魚類はチョウチョウウオ類、ブダイ類等の出現数では大きな変化がなかったが、サンゴ食魚類は減少している。無脊椎に関しても大きな変化はなく、オニヒトデ、サンゴ食貝類等も見られなかった。またサンゴ類の病気も見られなかった。

〇9mライン

9mラインは、ライン周辺の目視によるサンゴ被度は10～20%であり、オオトゲサンゴ類、アナサンゴモドキ類、キクメイシ類などの被覆状、塊状のサンゴ類が見られた。底質調査のハードコーラル占有率（HC）の結果は26.3%と前年19.4%と比較して6.9%も増加していた。直径5cm以下のミドリイシ類の新規加入群体は1㎡あたり平均して15個以上みられ、6mラインと同様に今後の回復が見込める状況である。

魚類、無脊椎に関しては6mラインと同様の状況であった。サンゴ類の病気も見られなかった。

◎総評

今回の小浜RC海域は梅雨時の降雨の影響等もあり濁りが強くよどんで、茶色系の暗い微小海藻類が底質を占めているため景観は悪い印象であった。サンゴ類は目視による被度、占有率の数字は3年続きで低い状態であるが新規加入のミドリイシ類が大変多く見られる。このため来年の海中景観はあまり変化ないと思われるが、2年後にはミドリイシ類が10cm以上に成長し景観が大きく変化していくものと思われる。オニヒトデなどの食害生物、病気等の影響は見られず良好であった。

今年は海水温が高く、6月中旬になっても台風が1つも発生していない異常気象で、このまま7月中も台風の発生がないと大規模なサンゴ類の白化現象が生じる可能性があり注意深く監視していく必要がある。

以上